

づくり教室などを行う中で、地域の世代間コミュニケーションを図っている。「カエルキャラバン」は遊びを通じて防災への興味と学びを提供するイベントであり、防災観光ふるしきを実際に使って水を運ぶ競技などを通し、ふるしきの存在や使い方をPRしている。NHK や日経新聞などのメディアに取り上げられることも増えている。

●**今後の展望** 学生と地域企業と共に、今後更なるまちの活性化を実現していきたいと考えている。また、防災観光ふるしきの小学校での教材化、南部での防災遠足の開催、動画による防災情報の配信に注力していく。

<質疑応答・意見交換>

○**参加者**：不燃化促進事業はどのように区民へ周知していますか。

⇒**西村氏**：墨田区では、京島と鐘ヶ淵に、UR や区の職員が常駐しているまちづくりの駅を設置しています。他に周知方法としては、まちづくりニュースの発行やHP の更新を行っています。補足ですが、墨田区、特に京島では防災訓練を積極的に行っていて、外部からの視察も多く受け入れています。公園の防災施設の鍵を住民に預けることで、住民から積極的に防災活動をしています。

○**参加者**：NPO の運営費の収支、食堂の営業許可、2 階のレンタルスペースの利用頻度を教えてください。

⇒**土肥氏**：収入はランチやカフェの収入とレンタルスペース等で年間 200 万円弱、各種助成事業の助成金で年よりもりますが 200 万円強。事業費以外にも維持費が 80 万円ほどかかり、収支は赤字で厳しいですが、沢山の方の寄付により運営しています。食堂は営業許可を得て、管理責任者を設置して営業を行っています。レンタルスペースは月に 10 回程度利用されています。

○**参加者**：芝浦工業大学はいつごろから墨田区での取り組みを行っていますか。

⇒**土肥氏**：ふじのきさん家の立ち上げ当初から中村仁先生に全面的にご協力をいただいております、その流れの中で研究室や学科の枠を超えてプロジェクトとして学生が関わることとなり、今に至っています。

⇒**中村教授**：現在は研究室としてではなく、学生プロジェクトとして関わっており、それがいいなと感じています。研究室となると教員が前面に出てくるのですが、学生プロジェクトでは学生が前面に立って街なかへ出ていくことになり、それが特徴でもあり、継続にもつながっていると思います。

○**参加者**：とても素晴らしい取り組みばかりだと思いますが、現在の活動で課題と感じていることや、新たに模索していることなどがあれば教えてください。

⇒**学生プロジェクト代表**：今年度はコロナの影響で交流イベントの企画実現ができなかったため、動画を中心とした防災情報の発信に力を入れてきましたが、やはり一方的に発信することでは、視聴者の皆様の防災意識が向上しているか、動画を見て実際行動に移していただいているかなど、直接確認できない点が課題となりました。そこで参加型の動画や双方向のやり取りが可能な企画について話し合いをしています。

例えば、家にある備蓄品や防災グッズがしっかり備えられているか確認してみる体験参加型の動画企画や、標語コンテストとして皆様から街の魅力を標語にして頂いたものを学生側でまとめて配信するなど、できる限り双方向のやり取りができるような企画を考えています。

<まちづくり専門家からのコメント (首都大学東京 名誉教授：高見澤 邦郎氏)>

墨田区は、まちづくりの先駆的・先進的な自治体としてよく知られていますが、制度の見直しも含め、大変継続的な取り組みであることがそれぞれのご講演から良くわかり、勇気づけられるところも数多くありました。行政だけでなく、民間の団体や芝浦工業大学の皆さんも住民との間を繋げ、多くのご尽力によるまちづくりがおこなわれていると理解できました。現場中継も大変良かったですね、防火・耐震改修の内容がよく伝わったと思います。防災ふるしきの動画も面白く拝見しました。大変勉強させていただき、ありがとうございました。

ご意見・お問い合わせはこちらまで

- 街みちネット事務局 ● UR 都市機構 東日本都市再生本部 密集市街地整備部 密集市街地整備課 株式会社 UR リンケージ 都市・居住本部 基盤整備部
TEL：03-5323-0983 FAX：03-5323-0354 Mail：machimichi-net@ur-net.go.jp
- 街みちネットホームページ ● <http://www.ur-net.go.jp/machimichi-net/>

街みち覽版

密集市街地情報ネットワーク

街に、ルネッサンス
UR 都市機構
第 26 号 令和 3 年 3 月発行

「街みち覽版（かわらばん）」は、官と民とが密集市街地の整備・改善等に関する情報を共有する場を提供するための情報ネットワーク（名称：「街みちネット」）の会報です。

「街みちネット」は、密集市街地での共同建替え、道路拡幅整備などの事業に携わり、地域に密着したまちづくり活動を行っている自治体等の担当部局、事業者、団体などの皆様に参加を呼びかける密集市街地整備情報ネットワークです。皆様の積極的な参加やご意見、事業情報等をお待ちしております。

第 26 回見学・交流会を開催しました（墨田区北部地区）

昨今の社会情勢に鑑み、今回の見学・交流会は街みちネット初のオンラインによる配信開催として、墨田区北部地区における燃えない壊れないまちづくりに向けた防災・福祉・ものづくり連携を育むまちづくりパートナーシップの取組をご紹介します。既存の施策にとどまらない、独自の幅広い取組を総合的に展開している関係者の方々からお話を伺い、中継会場「ふじのきさん家」のバーチャル見学を行いました。

■開催概要 ■ 日時：令和 2 年 11 月 25 日(木)14:00～16:30 参加人数：37 名 会場：オンライン（Zoom）

内容：①墨田区における不燃化促進事業の取組み

【墨田区 都市計画部防災まちづくり課 不燃化耐震化担当 西村 信行 氏】

②ふじのきさん家の取組（ふじのきさん家現地中継）

【(NPO 法人)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊 土肥 英生 氏、大鋸 幸絵 氏、石井 亮介 氏】

③すみだの“巣づくり”プロジェクト

【芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 学生有志】

④質疑応答・意見交換



ふじのきさん家
防災と福祉の拠点として、「燃えない壊れないまちづくりに関する講習」等防災に係る取組と「ふじのき定食」や「防災子ども食堂」など地域福祉に係る取組を行っている。



↑ 質疑応答・意見交換の様子

↓ 防災観光ふるしきとガイドブック

↓ 現地中継の様子



墨田区における不燃化促進事業の取組み

■ 墨田区 都市計画部防災まちづくり課 不燃化耐震化担当 西村 信行 氏

不燃化促進事業

● **事業発足の背景** 墨田区は関東大震災や東京大空襲など過去に多くの被害を受けており、基盤目状の道路構造の旧本所区（南部）と、曲がりくねった道や木造住宅が密集している旧向島区（北部）から構成されている。S51以降に「市街地整備基本調査」等を行い、都市の安全化を図るためには建築物の不燃化が有効という結論に達し、S54に「不燃化促進計画」をまとめ、同年より『逃げないですむ、燃えないまち』の実現を目指して、全国に先駆けて不燃化事業を実施している。

● 事業の展開

- ① **不燃建築物建築促進助成金交付制度 (S54)**：避難地及び一時避難路（幅員 15m以上の幹線道路）沿道の不燃化を図る
- ② **防災区画計画 (S58)**：区内を 25 区画に分割し、各区画を建物の不燃化による延焼遮断帯（2次避難路）で防御し、その区画内においては防災活動拠点周辺の不燃化と地域の防災体制の確立を図るため、防災活動拠点と幅員 11m以上の道路の沿道を対象地区とし助成
- ③ 阪神・淡路大震災の教訓より **主要生活道路の整備**が重要視しされ、**助成制度**を設立
- ④ **延焼抑止加算制度 (H18)**：科学的根拠に基づき不燃化促進事業の見直し調査を実施、重点不燃化促進区域を指定、延焼抑止加算制度を創設

防火・耐震化改修促進助成事業

- **事業導入の背景** 不燃化促進事業を開始して 30 年以上が経過し、区全体では建築物の不燃化は進んだが、区北部では依然として老朽木造建築物が多く残っていた。H18の不燃化再検討調査で従来の耐震改修との連携を視野に入れた新たな不燃化促進事業を構築する提案がなされ、廉価で簡易、短期間で防火性と耐震性を同時に向上させることができる「防火・耐震化改修」について、旧耐震の木造建築物を対象に H24 から助成事業を実施、H27 に助成対象区域を沿道から面的に拡大した。
- **事業の概要** 防火改修、耐震化改修に対し、基本一律 100 万円、特定区域加算 30 万円、耐震改修加算 40 万円、協調加算 30 万円



ふじのきさん家の取組

- (NPO 法人)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊 理事/(一財)都市防災研究所 土肥 英生 氏
- (NPO 法人)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊/デザイナー 大鋸 幸絵 氏
- (NPO 法人)燃えない壊れないまち・すみだ支援隊/地域計画連合 石井 亮介 氏
- (NPO 法人) 燃えない壊れないまち・すみだ支援隊 (以降、NPO すみだ支援隊)

● **NPO すみだ支援隊設立の経緯** 「すみだ燃えない・壊れないまちづくり会議」(「すみだまちづくり会議」と略す)は、墨田区が推進してきた沿道建築物の不燃化事業を見直す過程で H21 に結成され、建築物の防火・耐震技術開発や建物を新しくする機会の発掘などの検討・調査を行い、その成果として、リフォームやバリアフリー化等改修と併せ廉価で簡易に防火・耐震化を図る「防火・耐震化改修促進助成事業」が H24 にスタート。「すみだまちづくり会議」は、防火・耐震化改修促進具体化に向け、墨田区東向島 2 丁目を中心とした地域において「東向二四地区におけるまちづくりを考える会」を開始、その調査・検討活動を踏まえ、新たな公共支援事業を活用して空屋の防火・耐震化改修モデルづくりと防災・福祉の拠点づくりを進めることとなり、「ふじのきさん家」が H25 にオープン、その運営組織として NPO すみだ支援隊が成立されることとなった。

● **NPO すみだ支援隊の目的と特徴** NPO すみだ支援隊は、墨田区内の燃えない壊れないまちづくりに関心と参加の意思を有する区民、企業、NPO、大学等の研究機関、専門家などが協力して、広汎かつ多角的な視点にたって、墨田区における燃えない壊れないまちづくりを実践し、地域の防災対応力を高めることを目的として活動を行っている。「ふじのきさん家」を防災と福祉の拠点として運営しつつ、高齢者の生きがいの場づくり、すみだの“巣づくり”プロジェクトと連携した防災まちづくり、防災ものづくりに取り組んできた。

ふじのきさん家における活動内容 (R1.3 まで)

- **ふじのきさん家の概要** 木造 2 階建ての空家を改修した施設内のスペースの活用と活動内容は、主に次の 3 つ。
- ① カフェ&寄り合い：ふじのき定食、防災こども食堂等
 - ② 防火・耐震化改修モデルルーム：見学会等
 - ③ レンタルスペース：イベントや講座開催等

● **主な活動内容** 建築無料相談、視察・見学会、自主事業であるイベントや講座（ふじのき音楽倶楽部、和洋女子 DAY、道の駅たまかわマルシェ）、ふじのきカフェ（ふじのき定食）、防災こども食堂、地域と大学・企業をつなぐプログラム（防災遠足、防災観光ふるしきの制作と活用プログラムの展開）など

● **地域の防災の課題と展望** 防災という言葉のイメージは、負をなるべく小さくするという義務感のイメージが強い。防災は行政が行ってくれるものと考える人が多く、自主的に備えるイメージがあまりない。「防災」は世代を超えたみんなの課題であること、また、うまく取り入れることで新しい多世代間コミュニティ形成の活力にもなることを周知・実践して行く。地域の防災を「すみだらしい防災文化」として捉える試みを継続することで、日常的な活動の一部となることを目指している。



すみだの“巣づくり”プロジェクト

■ 芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 学生有志

プロジェクトの概要

● **学生プロジェクト** すみだの“巣づくり”プロジェクトは、芝浦工業大学の学生プロジェクトとして 5 部門のうち社会貢献部門への申請を経て大学から資金援助を受け活動している。2020 年度は、防災まちづくりに興味のある複数の学科の学生 36 人が所属。墨田区は木造密集市街地の災害に対する危険性と、都市に残る下町文化の共存が特徴であり、防災もまちづくりのひとつであるという部分に焦点を当て、防災まちづくりを進めるために、福祉・住民・行政・建築・医療といった個々の存在に対し、防災をテーマに学生が中心になって関わることで繋げていく取組みである。現在、地元企業や住民団体、教育機関、行政、地域活動団体、福祉・医療、その他の 30 以上の団体と協力し、墨田区では「ふじのきさん家」と、サテライトキャンパス「すみだテクノプラザ」の 2 つを拠点に活動している。

すみだの“巣づくり”プロジェクトの活動内容

- **防災遠足** これまでの避難訓練の課題として『災害に関する知識を参加者が身につける、参加者の高齢化、楽しめる要素、若い世代の参加』を洗い出し、避難訓練と遠足を掛け合わせた防災遠足を考案。実際の避難ルートとは異なり、一時集合場所から避難場所の東白鬚公園まで歩く間に、まちの危険な場所やまちの魅力を発見できる場所などを知らながら辿る。防災訓練の要素として、防災設備の使用法を学んだり避難経路の確認を行い、遠足要素として防災クイズを行ったり、天水尊や鳩の街通り商店街を経由して地元の魅力を改めて知ろうというイベントで、年 1 回企画運営している。今年はオンラインでの開催となり、動画を作成した。
- **防災観光ふるしき** 防災グッズを持ち歩いて普段使いできるよう、ふるしきに防災と観光両方の要素をマッピングし、防水布製のものは水を溜めて運ぶことも可能。NPO すみだ支援隊と共同で、2016 年に企画を開始し 2018 年に北部版が完成、現在は南部版を作成中。
- **防災教育** 小学校の夏休みと冬休みの宿題を教えながら、防災についても知ってもらおうというイベント「宿題 DAY」を年 2 回開催している。地元の元理科の先生に協力いただき、夏休みの自由研究に役立ててもらおうとスライム